重症心身障害者地域生活支援センター

重症心身障害者
地域生活支援センター
じねんじょ

発行者：社会福祉法人じねんじょ
発行日：令和6年4月1日
ＴＥＬ：083-252-2227
ＦＡＸ：083-252-2259
E-mail：jinenjo@jinenjo.or.jp
http://www.jinenjo.or.jp

大地

（じねんじょ通信）

VOL. 41
2024/4

20年目の春を迎えて

社会福祉法人じねんじょ理事長　金原洋治

この原稿を書いているのは3月5日。24節句の一つの啓蟄（けいちつ）と呼ばれ、寒さが緩み長い間土の中にこもっていた虫たちが土の中から顔を出し活動を始める頃です。我が家の庭では、さくらんぼの木に花が咲き始め、本格的な春の訪れが近いことを感じます。

2004年4月1日に、社会福祉法人じねんじょが運営する重症心身障害児者地域生活支援センター「じねんじょ」がオープンしましたので、今年は20年目の春を迎えることになります。創設時は10数名のメンバー（じねんじょでは利用者の方をメンバーと呼んでいます）と、27名の職員で活動を開始しましたが、現在は生活介護2施設（じねんじょ・だいち）、児童発達支援むくっこ、放課後等デイサービスむく、ヘルパーステーションふわり、相談支援事業所じねんじょ、山口県西部医療的ケア児支援センターなどの事業を展開するまでに育ってきました。今まで、これらの活動を続けてこれたのは、メンバーやご家族の皆様方のお力は勿論ですが、理事や評議員様、じねんじょを育む会会員の皆様、日々の活動にご協力いただいている皆様、寄付をいただいた皆様などの温かいご支援のおかげです。

紙面をお借りして御礼申し上げます。今後とも、ご協力ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

じねんじょの輪

今回は、じねんじょ立ち上げからお世話になっている監事、評議員さんをはじめ、メンバー、親御さん、深くかかわっていただいている施設、先生にじねんじょについてインタビュー、エピソードを伺いました。

「じねんじょ」と六人会

社会福祉法人じねんじょ　評議員　柴田 久

じねんじょ開設20周年にあたり、金原理事長・石塚センター長を始めとしてスタッフの方々の献身的なご努力や利用者の親御様のご協力があってこその20周年と認識いたしており、皆様に感謝申し上げます。

じねんじょ開設前に金原先生より、「柴田君、障害者を受け入れる施設を作るので協力してくれないか?」との申し出があり、日頃より先生の障害者の皆様に対する献身的な姿を見ておりますので、お断りする理由もなく、2つ返事の「はい」でした。

金原先生と私との出会いは、青年会議所にいっしょに入会し、共に入会教育を受けた仲間6人で、今も「六人会」として年に3回会合（実質飲み会で1回は宿泊）を行っており、40年以上続いている家族も認める仲良しおじさんグループです。メンバーはじねんじょの金原理事長・梅﨑理事・私、柴田評議員で、他に松倉さん・中野さん・坪根さんです。職業は医師・木材・採石・冷凍冷蔵施設・保険等…で、ボランティアとして、じねんじょ以外に森林を大切に育てる「ふくの森の会」や海峡花火大会「下関21世紀協会」の役員メンバーがおり、これらの賛助会員になったり、花火協賛金を出すなどともに協力し合って、自然や人を大切にし、イベント等でも地域を元気にしたい仲間です。

「六人会」は青年→おじさん→おじいさん（全員70才以上）となりましたが、元気なうちは「じねんじょ」を仲間と共に応援していきたいと思います。

じねんじょ前夜

社会福祉法人じねんじょ　監事　稲永祐二

じねんじょ創立20周年、おめでとうございます。私は、平成4年に障害のある子どもたちや、金原先生をはじめとする「下関市に療育センターをつくる会」（以下「つくる会」）と出会い、爾来じねんじょの設立までかかわらせていただくこととなりました。

つくる会は「下関市こども発達センター」が実現したことで名称を改め「のぞみの会」となり、じねんじょ創設への道しるべとなったのでした。じねんじょのホームページにある施設沿革は、平成10年のデイケアハウスきのみ開設から始まっていますが、源流、底流として、昭和の「つくる会」以来、金原先生をはじめとした有志の方々の長い苦闘?の歴史があることを忘れてはなりません。

以前も何かで書きましたが、重症心身障害者地域支援センター設立準備委員会が発足し、行政にも相談に乗っていただいてじねんじょ創設の準備を進めていたある日、山口県の障害福祉課に呼ばれ、日曜日に私一人で県庁に伺ったことがありました。その時、若い担当者の方から「今年度の山口県の障害福祉の目玉はこれでいきます。」と、言っていただき、まさに長い苦闘?の歴史が実となって結実するのをこの目で見たように感じました。これは私だけが一人その場で体験したことであり、今も心の中でのプチ自慢話となっています。

ホームページの写真では、知らない顔が増えましたが、みんなよい笑顔をしています。この笑顔の一助となれましたことは本当にありがたいことと今は思っています。

インタビューの質問内容

①じねんじょで過ごす、関わる中で楽しかった、印象深いエピソードはありますか?
②それぞれの方に合わせた質問

メンバー　田中翔吾さん

①しみずさんと、トンネル通って、ボッチャ、した!

②これからじねんじょで過ごす中でしたいことはありますか?

だいち、行く!トミカ、見る!

スポーツセンター　小田先生

①スポーツをする場面や出張出前教室での関わりがほとんどですが、ボッチャ、風船バレーなどをしている時に、表情や瞳の輝きを見て「興味を持ってくれているかな?」と思う事があります。

私たちも楽しくなるし、その中で「メンバーにできることはないかな?」と考え、勉強にもなる。ありがたい機会だと感じています。

②これからのじねんじょとどう関わっていきたいですか?

令和6年8月に開館予定の下関市総合体育館で新たに障害者スポーツに関する事業をスタートします。じねんじょのメンバーさんにも来ていただきたいと思っています。また以前予定はしていましたが行えていなかった重度の方に特化した特別講座についても、計画できればと考えています。

ボランティア　越智さん

①ボランティアとしてじねんじょと関わる前は、職員として働いていましたが、入職した後、関わる中で自分の名前を呼んでくれたこと、メンバーが明るく楽しそうに関わってくれることがうれしかったです。

②これからのじねんじょに続けていってほしいことは何ですか?

日々過ごす中でスタッフの方も学ばれたり頑張っているなぁと感じます。メンバーもじねんじょも、活気のある明るくてそれぞれ個性が発揮できるじねんじょであってほしいと思います。

親御さん　木下さん

①娘は県立盲学校（現在の南総合支援学校）出身で当時は、送迎はできず、お昼も家族同伴でなければ通えませんでした。じねんじょに通いだしてから、送迎で「行ってらっしゃい」、「お帰り」を伝えたときに「娘自身の生活」が始まったのだと強く感じました。

②今後のじねんじょに期待することは何ですか?

今後のじねんじょについて例えば連絡帳でも、共通の物からそれぞれに合わせた連絡帳に変えてくれています。そのメンバーらしさ、個性を考えて、関わり続けてほしいです。スタッフが変わっても、温かい雰囲気を忘れないでほしいです。

有薗製作所　松本さん

①この仕事を始めて、30年たちますが日々楽しく仕事をしております。

じねんじょの方々との出会いは、かねはら医院訓練士の日野先生との出会いが始まりです。病院駐車場でお声をかけていただいたことがきっかけで、じねんじょに訪問するようになりました。当時、金原先生、日野先生の仕事への姿勢、真剣に向き合っておられる姿に感銘を受け、私も先生方にこたえられる仕事をしていきたいと思ったことを覚えています。

じねんじょのメンバーさんとは小さいころに出会い、今では、皆さん成人されています。同じ時間を過ごして、一緒に年を取って、長い間お付き合いさせていただけてとても幸せです。

僕は仕事が天職だと思っています。障害はそれぞれ違いますが、ご本人は勿論、ご家族や施設スタッフの方々が使いやすい用具を作るよう心がけています。子どもたちを「癒す」装具を作り続けたいと思います。

笑いヨガ　藤田先生　新谷先生

①コロナ禍前は近くで肩を寄せたり、握手したり安心を感じました。また寸劇もあり、理解され一緒に笑いました。コロナ対策として、メンバーさんの正面で行う形式に変更をしましたが、笑顔は遠くても変わらない、今までの笑いヨガと同じように皆さんも反応してくれていると感じました。

②これからもじねんじょと関わる中で大事にしたいと思うところは何ですか？

今までに引き続いて、季節感やその時その時の出来事も取り入れて常に新鮮な笑いヨガを行っていきたいと思っています。またメンバーの皆さんの年齢が上がってきたことも生かし、社会環境をわかりやすく伝え、ゆったりとした笑いヨガも考えていきたいと思っています。

きょうだい児ボランティア　宮本さん

①夏休みのむくっこ活動にきょうだい児として参加しました。妹たちとのプール遊びやスイカスイーツ作り、スヌーズレンなどで過ごした事がとても印象に残っています。その時の写真を見ると、楽しかった気持ちが今でも鮮明に思い出されます。

②これからのじねんじょに、期待することはありますか？

きょうだい児の関りを大切に、続けてもらいたいと思っています。今後、イベント企画があれば、ウクレレ演奏などで関わりたいと思っています。

スワン美容室　青木さん　スタッフさん

①長年関わっていることもあり、普段から休みのメンバーさんがいると、今日はどうしたのかな？と話したりします。（スタッフさん）

じねんじょの前身デイケアハウスきのみの頃からの縁で、制作した移動美容車も24年目になります。金原先生の深いご理解、ご指導をいただきながら関わらせていただきました。印象深い、自慢できることといえば不慣れだったころから今に至るまで、一度の事故なく携われていただけたことと、椅子の故障をきっかけに、有薗さんとつながりができて、修理をしていただいたことです。（青木さん）

②カットの時に気にかけていることは何ですか？

第一に、姿勢を変えるときにきつい体勢になっていないかを気にかけています。また雰囲気として怖い場所にならないように気を付けています。（スタッフさん）

下関市民会館　萬松さん

①何度もヘルパー事業を通して、当施設を利用していただいていますが、メンバーさんが楽しんでいる姿が特に印象的です。

②メンバーが利用した時に、ホールの座席まで付き添って案内していただき助かりましたという意見がじねんじょからも挙がりました。

職員へ伝えていることについて皆さんに感じてもらえたということが、大変ありがたいです。今後も喜んでもらえるような対応を心掛けてまいります。

また市民会館ではアンケートも行っていますので、他にも気づいたことがあればお聞かせいただき、改善していこうと思います。

オニオンズ　鬼塚さん

①15年前頃に、ウクレレライブの観客だった職員から声を掛けられたのが出会いのきっかけでした。大きな音に恐怖感を抱いたり、反応がなかったりするメンバー達だけど…という前置きがあったので、がっかりさせないようにと身構えて来ました。

しかし、3～40人のメンバーが楽しそうに演奏を聴き、リズムをとりながら一緒に過ごせたことがとても嬉しかったです。

②その中でも特に、楽しかったことはありますか？

じねんじょでの演奏をきっかけに、職員がウクレレ教室の生徒になり、じねんじょや地域のイベントで一緒に演奏ができた事です。

成人を祝う会

2/29(木)に令和5年度成人を祝う会を開催いたしました。下関グランドホテルでの開催は5年ぶりとなり、昼食会、理事・評議員の方々との懇親会も同時に行いました。

今回は成人を迎えたメンバー2名と、40歳を迎えたW成人のメンバー2名のお祝いをしました。久々のグランドホテルでの開催ということもあり、いつもと違う環境にメンバーも緊張している様子でしたが、笑顔が多くみられる和やかな雰囲気の会となりました。ご家族のお話を拝聴できたことで、今まで以上にご家族の想いを感じることができました。

これからもメンバーの想い、ご家族の想いを胸に、メンバーが好きな事や得意なことを伸ばし、その人らしさを大切にした支援をしていきます。

じねんじょ公開フォーラム2023を開催しました

今年度のじねんじょ公開フォーラムは、「重い障害がある人の暮らしを支えるために必要なこと―夢と希望を語る」をテーマとして、第一部は福祉分野の領域でご家族とともに実践を積み重ねてこられた方々による実践報告、第二部は夢や展望を語る未来に向けたトークセッションという二部構成にしました。当日は職員も含めて72名の方にご参加いただきました。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

まず金原理事長から重症心身障害や医療的ケアが必要な方の暮らしについて、当法人のこの20年間の歩みのお話しがあったのち、沖村文子さん、宅野瑠美さん、宮野直樹さんの3名のゲストスピーカーからご自身の活動の実際とこれからの展望をお話しして頂きました。

参加者からはたくさんの感想を寄せていただき、全てこちらでご紹介したいと思うほど、内容を企画した職員にとってとてもうれしく、また明日からの支援に向けての活力になる内容が多くありました。

社会福祉法人じねんじょは金原理事長の「なければつくればいい、こうあってほしい、こうなってほしいという思いを持つことを大切に」「支える人だけでは成り立たない、支えられる人だけでも成り立たない」という思いを職員一人ひとりが最大限くみ取り、実践にうつしてきたと思っています。その過程の中で、沖村さんや宅野さん、宮野さんとの出会いがあり、職場や対象としている方は異なるかもしれないけれど、共に実践者として下関市で活動してきた大切な仲間であり、これからもその関係を大切にしながら、また新しい仲間を増やしていきたいと思った1日でした。

寄付者氏名 2月28日現在(順不同)

六人会様、中野翔太・煌大・日香里様、
下関少年少女合唱隊様、花笑み様、
服部真由美様、大畑一郎様、じねんじょ窯様、
(株)松岡様、(株)神戸製鋼所長府製造所様

ありがとうございました!

編集後記

今号は、じねんじょ開設20年ということでじねんじょの立ち上げや、活動の中で縁のある方へのインタビューを中心に取り上げさせていただきました。

今回取り上げさせていただいた方々だけでなく、地域のみなさまを始め「じねんじょの輪」を強く感じました。これからもさらに輪が広がっていけるよう発信を続けていこうと思います。

SNS

Facebook

Instagram